

こんにちは 日本共産党 松本市議団です

松本市議会の12月定例会が終わりました。
私たちが市議団は、地方自治体を困難に陥れている安倍政権の暴走に
対して、市民のくらしをどう守っていくのか、市長及び市の姿勢を正
面から質問しました。



南山国彦 議員

こどもの医療費窓口無料化実現に
むけて、質問しました。

市長は市政の重点政策のひとつとして「子育て支援」を初当選以来、推進してきており、議会初日の提案説明で「これまでの10年間を改めて点検する形で、残り2年間で3期目の総仕上げを図っていくための重要な年であります」と言われました。そこで、「こどもの医療費窓口無料化」は、すでに20年ほど前から私たちや市民のみなさんが取り組み、また要望を続けているところですが、取り組み状況はどうなっているのか。また、市長任期があと2年あまりとなり、最後に残った大きな宿題。決断する時ではないか」と聞きました。

福島子ども部長答弁

窓口無料化は「国保の国庫負担金の減」「健保組合等の付加給付・受給者負担金の公費負担」など市にとって新たな多額の財源が必要となること。医療機関等の業務量の増大など、デメリットが大きいので市単で取り組

むことは難しい。全国市長会を通じて国に要望しているところです。
という答弁で、窓口無料化に向けての前向きな姿勢は感じられませんでした。
また、残念ながら、最後まで市長からの答弁はありませんでした。



東山部地域の公共交通政策について

11月20日開催された中山地区まちかどトークで、現在のバス路線は使いにくく、公共交通の充実を求める要望が出されたことに関連して聞きました。

その時は、「まずは今あるバスの利用促進を、人口が多いところはコミュニティバス方式、人口の少ないところは住民主体の「地域主導型」のバス運行」といわれましたが、そのことはわかりません。しかし「使いたくても使えない」という状況があることも事実で、それは運行便数や時間帯の問題が解消されればうまくいくということではありません。

公共交通＝公共サービスですから

もっと行政がきちんと関わり、それぞれの地域の実情に合った公共交通が求められるのではないかと質問しました。

大石政策部長答弁

地域の足の確保は地域の共通課題としてまずは住民一人ひとりが主体的問題としてとらえて議論していただくこと。地域主導型公共交通システム助成事業の活用について検討できるのではないかと。相談いただければ一緒に課題解決に積極的に協力する。

有害鳥獣の焼却場について

この問題も「中山地区まちかどトーク」で要望が出されました。「減ってきたとはいえ、昨年は53頭、今年は昨日までに45頭捕獲し、その大半は柵の内側で、内田塩尻側から侵入してくる。また、この2か月間に3回シカとの交通事故があり、地元ではその処理に苦慮している」との話を紹介し、現状ではほとんどを埋設処分しています。場所によつては、中山もそうですが山の中心は石も多く、重機が使えるところも限定され、人力での穴掘りは大変な労力を費やしています。その上いくら山とはいえ、どこにでも埋めることができるわけではなく、場所探しも厳しくなっています。したがって、どうしても焼却処分にする必要に迫られています。

何らかの焼却施設が必要だと考えますが、見解を伺います。

坪田副市長答弁

焼却するには、地域の理解や維持管理など多くの課題があるので、当面は数々課題はあるが「埋設により処理する」として、場所の確保を含め関係機関と検討し、考えて行きたい。

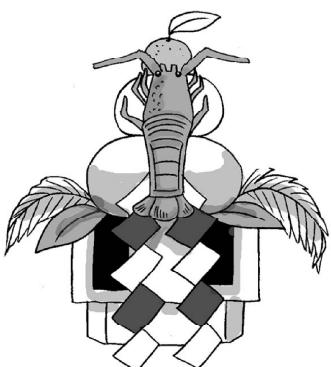
最後に

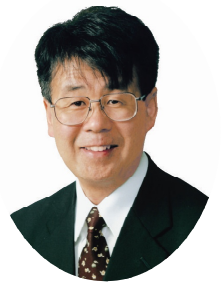
現場は本当に困っています。後処理が大変で「わな免許」を返納したという話もあるようですし、沢に2頭のシカが放置されていて発見した地元の方が、仕方なく自分の山に埋めたということもありました。

新たに焼却施設をとというと確かにたいへんな問題だと思いますが、足を踏み出さなければなにも進みません。有害鳥獣だからと言って野に晒しておくより、きちんと最後まで処理して、年に1度は慰霊をすることが「生あるもの」への真摯な姿ではないでしょうか。

私は、中山霊園周辺は、そういう場所として検討出来る、ひとつの場所だと思っています。初めから無理というのではなく、出来ることは何かと、前向きにぜひ検討してほしいと要望して、質問を終わりました。

(裏面につづく)





池田国昭議員

安倍政権の暴走に、 対峙してこそ、 市民生活が守れる

社会保険制度は、国の責任において行われるべきものです。ところが「社会保険制度改革推進法」

「社会保険制度改革プログラム法」は、憲法25条にもとづく社会保障を解体して、国民を無理やり「自助」に追い込むものです。どう考えるのか見解を伺いたい。

又、消費税の増税によって社会保障制度とその財源は充実されるものとなつていきますか。お聞きします。

次に、生活保護費がこの8月から削減され、他の制度への影響が心配です。

松本市の場合はどれだけの事業に、のべ何人の市民に影響が生じる見通しですか。

また、その対策はどのように考えているか。お聞きします。

菅谷市長答弁

社会保障制度は、自助、共助及び公助の組合せを通じて実施されるべきものと考えております。

また消費税の引き上げによって、給付、負担の両面で世代間の公平が確保され、将来世代への負担が過大とならないよう求められており、社会保障制度改革と財政の健

全化のために必要不可欠と考えております。

社会保障制度改革の全貌は、今後制定が予定されます個別の法案によらないと詳細が不明であることから、引き続き国の動向を注視していかなければならないと考えている。

渡辺健康福祉部長答弁

生活保護基準の見直しに伴う、影響が生じる事業数や影響を受ける市民の延人数につきましては、平成25年度の影響が少ないことから、詳細を把握しておりません。

2回目

2つの法律で、社会保障は前進なのか、後退なのか、残念ながらその答弁はなかった。

社会保障は、「公的責任による人権保障の仕組み」です。

今回の法律は、医療・介護・年金など社会保障の全分野にわたる制度改悪の実行、まさにそのプログラムを政府に義務づけていることです。

個人負担増と制度改悪給付減を合わせると総額3兆円。消費増税

からの「2.8兆円」を上回る負担増です。

先ほどの答弁は、こうした事実を知った上での答弁なのか、疑わざるを得ない。再度、菅谷市長にお聞きします。

また、生活保護費削減がどれだけの影響を及ぼすか、北海道の帯広市では、51事業、のべ人員は、人口の4分の3におよぶことが明らかになりました。

それほど大きな問題が、生活保護受給者以外の市民の方々にも大きな影響を及ぼすのです。何でこの調査をやったのか。

菅谷市長

2つの法律に対する評価ですが、この考え方や、主義主張に基づき、賛否さまざまあることは承知しております。

私は、現時点では、ただ今申し上げた通りです。

渡辺健康福祉部長

影響が少ないとの判断のもとから、その必要性は少ないと考えております。

「国旗・国歌に敬意を払い、国家へ忠誠すべし」!?

日の丸が掲揚されての初めての12月議会。

前代未聞のとんでもない発言が飛び出した。

新風会を代表した議員が次のように発言したのです。



日の丸が掲揚される議場で、訂正を求める発言をする池田議員

「国旗、市旗が掲揚されるようになりました。国旗、国歌に対し敬意を払う、これは国際的儀礼であり、マナーである。地方議員といえども、国家への忠誠と全体の奉仕者としての自覚と責任を持つべきです。」

池田議員は、すかさず「議事進行」発言をし、訂正を求めましたが、

発言者は全く意に介さず、それどころか承知して発言したと「確信犯」を自慢するかのような態度。

時代錯誤ぶりは、議長裁定のように「個人の見解」では済まされない内容です。

他の議員から、「『忠誠』はいけない。」「いつから、ナチスのようになったのだ。」との声が出るのは当然です。

慎重運用ではなく、廃止しかない!

秘密保護法

総務委員会で議論された、「廃止・反対」を求める請願・陳情は、「廃止でなく、慎重な運用でよい」とする共産党以外の全議員で否決。

私たちは、他の無所属の議員と共に、最終日、「特定秘密保護法の廃止を求める意見書」の議員提案を行い、南山議員が提案説明を行いました。

一方、請願を否決した議員は、「国民の声に真摯に耳を傾け、国民の知る権利を尊重し、指摘されている不安や懸念を解消するための適切な措置を講ずる」ことを求める「運用に関する意見書」議案の提案を行い、採決の結果、私たちの提案は残念ながら否決されました。

不可解なことは、「廃止・反対」の請願の紹介議員となつた社民党の2人の議員は、当初私たちと共に提案者となる予定でしたが、最終日前日になって、共同提案を辞退、そして何と「廃止」案には反対し、「運用」案に賛成したことです。

「撤廃はポーズだけだったのか。」の批判は免れません。